

【推薦施設】

区西部における地域がん診療連携拠点病院として、日本大学医学部附属板橋病院及び帝京大学医学部附属病院を推薦する。

【複数施設を推薦する理由】

圏域内人口、医療機関数ともに最も多いこの圏域を1か所の医療機関が担当するのは、他の圏域と比較して大変負担が大きく、高度ながん医療を提供しつつ、患者や家族に対する相談支援や地域連携を推進していくのは困難と考えられる。そのため、2病院で拠点病院としての役割を果たしてもらうことが必要である。

推薦する日本大学医学部附属板橋病院と帝京大学医学部附属病院は、両院ともに特定機能病院であり、高度ながん診療機能を備え、かつ教育機能も充実した施設である。また、緩和医療や相談支援についても前向きな姿勢が伺え、拠点病院としての役割を連携し取り組むことで相乗効果が期待できる。

また、この圏域内の特徴として、板橋区内を東西放射状に貫く東武東上線と都営地下鉄三田線の2路線により、「板橋区西部・練馬区」エリアと「板橋区東部・北区・豊島区」エリアの2つのエリアに患者の通院圏域が分かれている。両院の患者流入状況を見ても、交通機関による受療動向が伺える。

そのため、圏域内の患者動向を踏まえつつ地域分担しながら、2病院が相互に連携し、がん診療連携拠点病院としての役割を果たすことが求められていると考える。

【日本大学医学部附属板橋病院の推薦理由】

- ・指定要件の必須要件及び都評価基準を整備していること。特定機能病院の指定要件である腫瘍センターも設置済みであること。
- ・新入院がん患者数：年間3,822人、手術件数：年間1,451件と診療実績があること。
- ・これまで地域がん拠点病院として、相談支援センターの設置、院内がん登録等の取組実績があること。
- ・緩和医療について、緩和ケアチームの設置や院独自マニュアルの作成など積極的な取組があること。
- ・相談支援センターについて、担当者23名の配置やアスベスト相談など、相談業務への積極的な取組が伺えること。

【帝京大学医学部附属病院の推薦理由】

- ・指定要件の必須要件及び都評価基準を整備していること。特定機能病院の指定要件である腫瘍センターも設置済みであること。
- ・新入院がん患者数：年間3,320人、手術件数：年間915件と診療実績があること。
- ・相談支援センターについては、腫瘍センター内に設置し、看護師やMSWの配置など行っていること。
- ・院内がん登録についても整備し、拠点病院としての取組に積極的な姿勢が伺えること。

(6) 西多摩医療圏について

【圏域の特徴】

西多摩医療圏は、青梅市、福生市、羽村市、あきる野市、瑞穂町、日の出町、桧原村、奥多摩町の4市3町1村から構成され、圏域人口398,046人、面積は572.71k㎡と都内で最も広い地域である。病院は29施設、人口10万人当たりの病院病床数は1652.1床で東京都全域1042.4床をかなり